

第176回拡大地方委員会

国労水戸

国労水戸地方本部
 水戸市中央1-1-11
 ENYビル2F
 029-221-4008
 発行責任者 堀 正人
 編集責任者 坂下 司

国労の存在を訴えよう

3月6日、国労水戸地本は自治労茨城県本部において、第176回拡大地方委員会を開催した。

大賀副委員長の司会で始まり、議長に市井委員（勝田地区分会）が選出され、委員長挨拶、経過・闘争方針案、組織財政検討委員会答申、質疑応答が行われ闘争方針が確立した。

議長より、勝田地区分会大会が開催した。分会意見交換



会を独自に行い、自分の意見が言えて良かった。コロナ禍で集まるのが大変であるが、集まる場を作ることが大切だと挨拶した。増委員長挨拶より、2021春闘について、国労は第191回拡大中央委員会において当面する闘争方針を決定した。コロナ禍において、安全安定輸送の確保に日夜取り組んでいる社員

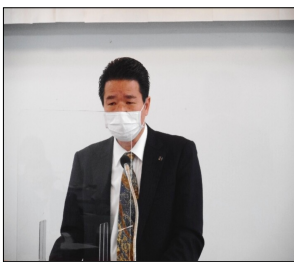
一人で悩まず
 国労へ相談。
 みんなで楽しく
 がんばろう

対し正当な賃上げが必要である。要求獲得に向けて大衆行動を展開し、団結した労働者の力と運動の積み上げによって賃金交渉を支えていく。

組織強化拡大について、次世代に運動を託すだけでなく、仲間を拡大することこそ私たちの責務である。

全機関で組織拡大運動の総括を行う中で、成果と課題をあきらかにし更なる運動を展開したい。国労運動の継承と発展に向け全力をあげていこう。

職場労働条件改善、安全・安定輸送確立の取り組みについて、JR東日本は「変



革2027「変革のスピードアップ」に沿って



各系統で効率化施策等を矢継ぎ早に展開しています。3・13ダイヤ改正では水戸線ワンマン化の実施が予定している。利用者の安全と労働者が安心して働ける職場作りをしていく。政治的課題について、今年には衆議院の任期を迎える。立憲野党が擁立する統一候補当選に向け取り組む。東日本大震災は丸10年を迎える。県内外に非難して

いる人は41000人を超え、更に廃炉に30年以上かかると言われ汚染水の問題と山積している。反原発脱原発の取り組みを強化する。

皆川委員（水戸地区分会）



組織強化・拡大は各職場の係わりは大切である

り今後どう進めていくのか。再雇用先の経営の見直しで出向契約解除に再雇用先は夜勤作業があり身体がついていけない。

機械グループのエリア変更で出向社員に異動の話もある。出向先はエルダー社員を頼りにしている状況。
 （裏面へ）

来賓紹介

アベニール株式会社
 国労会館
 国労東日本本部

菊池 忠志
 佐藤 正幸
 （メッセージ）

大槻委員 (土浦地区分会)



過半数代表に立候補したが、呼びかけが弱

かった。

要員不足の問題で決意表明した。今後は現場長も変わり要員問題、安全問題で言っていく。

労基署の立ち入り検査が入り時間外労働の割増不払いがあると指摘された。

時間管理の徹底、連夜勤務で出向先の労働条件改善が求められている。

佐々木委員 (勝田地区分会)



毎月、意見交換会を行い職場の不平等を聞いて問題点を

して要求にする。対話行動を通じて、組織

拡大に意思統一してきたが成果が上がらない現状にある。

分会事務所が無くなり、集まる場の確保を地本に組合員の不安を解消したい。

小倉委員 (水戸地区分会)



ジョブローテーションが駅内で回

書記長集約

政党の問題について、組織の現状では国労は少



第176回拡大地方委

る。

来年度の採用が少ない見込み。駅職場が委託化の拡大になるのでは、JESSのプロパとの関わりが必要である。

関内委員 (いわき地区分会)



過半数代表選では組合の話をし

数になり、会社や生活があつての労働組合である

というスタンスで組織議員についても今後議論していく。

反原発・脱原発のもとフクシマの事故を風化させない。国労フクシマ学習会を積極敵に取り組んできた。

常磐線全線開通で地本独自の視察学習会、激励会を開催した。開通後の問題を現地から聞いて今後の検証課題、方向性を

ている。要員が不足しては安全が守られない。

小動物(イノシシ)衝突では乗務員が薄い手袋で線路外に出している。若い人と見に行つて酷いと話をしている。

松田特別執行委員

JESS土浦管区で2期連続で当選した。

過半数代表になるのが目的ではなく。対話を通して自分や回りの働き方を見て

確認してきた。

春闘は中央総決起集会でWEB開催に参加した。春闘交付金は、集まらない中での改善、通信、教宣活動の強化、感染対策防止の活用。コロナ禍

の中でも運動を止めない取り組みを要請する。反合理化・労働条件改善の闘いについて、業務部を中心に班・職協から協力を得て申し入れを行ってきた。会社からは仕事・業務を知っているのは国

労であり、ブレない、まとまっている組織である。エルダー先の労働条件改善、要求を行う。本人の希望に沿った職場を見つめるべきだ。

少しでも働きやすい職場にしたい。そこから労働組合の必要性を感じてもらい、加入してもらうことである。若手社員は矛盾があつても管理者に言えない。自分がどの方向に進んで行くか迷っている。我々が何もしなければ変わらない。



少しでも働きやすい職場にしたい。そこから労働組合の必要性を感じてもらい、加入してもらうことである。

常磐線全線開通後も職場総点検で強化。労働者の目線に立ち安心して働ける、要求・交渉を取り組む。組織拡大は今からの運動、次への行動として信頼関係や分会・班の強化の構築を目指す。